



米沢有為会 仙台支部だより

第3号

平成21年9月23日

発行者

(社)米沢有為会仙台支部

支店 甲 國信

仙台市青葉区二丁目7-13-402

TEL 022-215-0236

米沢有為会仙台支部総会報告

平成21年度米沢有為会仙台支部通常総会が6月13日(土)仙台ビジネスホテルにおいて開催されました。出席者数は会員21名、来賓1名、学生会員3名の計25名でした。初めに中條仁仙台支部長より、さらに来賓として出席された中川紘一本部理事より挨拶がありました。事務局より平成20年度収支決算及び監査報告並びに事業・業務報告がなされました。

新年度の役員人事として、支部長の中條仁氏が退任され名譽顧問に就任、新支部長として甲國信が就任、副支部長の加川巖氏が退任、新副支部長として塚原保夫氏が就任されました。新理事として田林晁一氏が新任、監事の上野恒太郎氏が退任、加藤啓一氏が新任されました。その後平成21年度収支予算(案)、事業計画(案)が提案され、承認されました。

本年度の重点的な事業内容として、

- ①創設120周年記念事業(寮改修計画他)、②支部行事、交流会・趣味の会、③会員増強計画、④120周年記念事業支部委員会、⑤興讓館寄宿舎OB会支部委員会、⑥支部だよりについて(編集委員募集、原稿募集等)が提案され、承認されました。

総会の後、懇親会が開かれ出席者の自己紹介・ショートスピーチなどなどなごやかに懇談が行われました。(T)

仙台興讓館寮大規模改修工事

間もなく終了

仙台興讓館寮は築後22年経ちましたので全面的に手入れ、改修が必要な状況です。資金の関係でこれまでは生活上我慢しきれない厨房・衛生機器などの緊急補修、緊急交換等、その都度対処してきました。H20年度は創立120周年記念事業の仙台興讓館大規模改修第一期工事として、特に生活上必要な、消防法上の避難器具交換、壊れた玄関錠の交換、換気窓開閉機構修繕、衛生機器の修理・交換、外部手摺・物干等外部鉄部の錆補修、除湿器設置等の工事を本部負担で実施しました。引き続き今年度は120周年記念事業第二期工事として本部からの1,000万円の予算に支部財源から50万

円を加えて内外の大改修を実施していますが、9月末まで工事が完了予定です。

- 外部修繕工事として、①屋根・屋上関係 ②外壁関係 ③サッシ関係 ④玄関前舗装等、内部修繕工事として、①床居室畳替・約半分フローリングに改修・シートワックス掛、②壁ビニルクロス張替、③天井EP塗装、ビニルクロス張替、④内部建具・押入改造、⑤カーテン⑥設備機器・配管配線工事等の工事が実施されています。(M)

会員の交流を促進し輪を広げる

支部だよりの発刊と会員交流の企画

昨年創刊しました支部だよりを、本年度は2回発行予定です。120周年記念事業に関する情報や、東京支部のように趣味の会や町のおもしろどころ探訪等、会員の交流を促進し、輪を広げるツールとなるような企画を盛り込む努力をするつもりです。編集への参加や投稿(CMでもかまいません)を歓迎します。

寄宿舎OB会の開催

甲新支部長を中心に舎生OB会活動を促進し、有為会入会や寮の改修計画への協力PRをしていく予定です。

支部長就任のご挨拶

甲 國信



6月の支部総会で、なごらく仙台支部の活動を支えてくださった中條支部長の後任を承るようになりました。中條先生は支部長を務められる以前、仙台興譲館寮の館長も務められ、併せて30年近くも有為会の活動に貢献してくださいました。先生のこれまでのご苦勞に対して、支部会員の皆様とともに厚く感謝の意を表したいと思えます。後任を承った私は、昭和30年代後半の学生時代に、仙台興譲館の舎生として有為会にお世話になりましたが、入会した時期は遅く、会員としての期間はおよそ10年に過ぎません。いずれ会のために働かねばならないと思っていました。支部長の役目を引き受けることになるとは考えてもいませんでした。まだ五里霧中ですが、皆様のご協力を得て務めを果たしたいと思っています。

有為会は今年創立120周年を迎え、11月には東京で記念行事が開かれます。この行事に関連した調査のため、明治22年の発刊以来の有為会会報を、米沢市立図書館で閲覧する機会がありました。驚いたことに、明治から大戦前までは、会報がほぼ毎月発行されていて、当時の会員の有為会にかける意気込みがなみなみならぬものであることを感じました。当時に比べて通信手段や交通手段が飛躍的に発展した現在では、グローバルなものの方が要求されるようになっていくことから、せまい地域の郷党意識を時代にあわせないものとする向きもあるかもしれません。しかし、これらは決して対立するものではないと思えます。やはり故郷は懐かしいもの、大切なものであり、そこで育まれたもの同志が親睦を図り、また、郷里の発展のための活動を行うこととの意義は、現在も変わっていないと思えます。

最後に、創立120周年記念事業についてのお願いです。有為会の窮屈な財政事情から、会員の皆様にご支援をお願いすることになっています。とくに、寄宿舎舎生OB、奨学生OB、OGの方はご支援のほどよろしくお願いいたします。

(前仙台支部副支部長)

支部長退任のあいさつ

中條 仁



このたび、米沢有為会仙台支部長を退任いたしました。後任には甲國信氏に就任していただきました。氏は東北大学名誉教授であり、また学生時代には仙台興譲館に在寮されたことでOB会の支部長にも就任していただいております。今後の活躍が期待されます。

私が平成5年、小松物産株式会社社長、故小松英次氏から仙台支部長を引き継いで以来、16年の長きに亘りその任にありながらこれと云った業績を残すこともなく過ごしたことは誠に汗顔の至りであります。支部の事務局的業務は、会計関係等が複雑となり、小生の老化した能力を超えてきたため、平成16年より気鋭の御供仙台興譲館長に兼任して頂いております。今後は支部の事業始めOB会や有為会の会員増強に微力ながらお手伝いさせて頂く積りであります。

(前仙台支部支部長)

仙台支部年間行事予定

- 10月10日(土) 芋煮会(会場：仙台興譲館又は廣瀬河畔/支部・寮生会共催 秋の交流会)
- 10月24日(土) 寄宿舎OB会(会場：松島)
- (11月又は12月) 置賜人会
- 12月12日(土) 17時半より忘年会(会場：仙台興譲館/寮生会主催)
- 1月 9日(土) 第一次新入寮生面接(会場：仙台興譲館/寮生会主催)
- 1月23日(土) 新年会(会場：未定/寮生会主催)
- 2月28日(土) 卒業生を送る会(館長自宅/館長主催)
- 3月20日(土) 第二次新入寮生面接(会場：仙台興譲館/寮生会主催)
- 3月 日() 奨学生面接(会場：未定 本部教育部主催)

☆その他行事案内

- 11月28日(土) 米沢興譲館同窓会
- 宮城支部総会(KKR)

仙台興譲館寮同窓会

加藤 義彦

第8回仙台興譲館寮同窓会は、平成20年10月25日(土)から26日(日)にかけて、山形県南陽市の赤湯温泉「森の湯」で開催されました。

ここでは、同窓会の様子と雑感並びに会のこれまでの経緯について、記念写真を交えながら報告します。

第8回同窓会

今回は米沢と高島在住の6名が幹事を務めました。参加者は左の写真の様に18名で、入寮が昭和35〜48



年と約一回りの年齢幅があります。在寮時代には一度も顔を合わせたことのない方々が一同に集まり、和気あいあいと過ごす、これぞ興譲館寮らしい同窓会だと感じました。

午後3時チエックインの案内をされましたので、幹事もそれに合わせて集まったところ、もう既に2名の方がおみえとのこと、この会を楽しみしておられる現われ、キチンとやらなくてはと身の引き締まる思いがしました。

午後6時開会、6時40分記念写真撮影。なぜこの時刻に記念写真か、これには静岡県で医院を開業している金田先輩(写真中央)を抜きには語れません。先輩は午前中の診療をしてから出発するため、どうしても到着がこの時刻になってしまつたのです。本人によれば儲からない医者の種類に属するらしいのですが、今後も仁術医に徹してもらいたい、というのが皆の願いです。記念写真をちゃんと撮つたのは今回が初めてですが、それには2つの理由があります。一つ目は、翌朝に配るので郵送しなくて済む(手抜)、二つ目は、写真をホームページに掲載しても見られない方がおられる、からです。

9時過ぎからは、二次会となりましたが、お膳がない分お互いの距離が縮まり、お酒の勢いも手伝つてさらに突っ込んだ話ができ、この会には無くて

はならない大切な場面になっています。翌朝は、何となくロビーや玄関にたむろしてなかなか去りがたい、これも毎回のことですが、この余韻もまた心地よいものです。第8回はこのようにして無事終了できました。感謝!

同窓会の経緯

昭和37年入寮の齋藤彰先輩達が中心となり、これに呼応して35〜36年入寮者が集まり、平成10年から隔年開催でスタートしました。

第1回 10年11月22〜23日
秋保温泉 緑水亭 11名

第2回 12年10月21〜22日
松島 センチュリーホテル 10名

第3回 14年10月19〜20日
白布温泉 西屋 13名

この回から徐々に若手が参加。

第4回 16年11月6〜7日
松島 ホテルニュー小松 14名

歳も歳なので、次回から毎年開催。

第5回 17年11月19〜20日
岳温泉 扇や 12名

第6回 18年11月11〜12日
小野川温泉 旭屋 12名

第7回 19年11月10〜11日
泉ヶ岳温泉 やまぼうし 15名

3枚の記念写真でこれまでの参加者

ほぼ全員を網羅する事ができました。

(米沢支部・高島町在住)



平成19年 第7回同窓会 泉ヶ岳温泉 やまぼうし



平成16年 第4回同窓会 松島 ニュー小松

ニュージージーランドの旅

(一般家庭訪問)

鈴木 良平

昨年の暮れに、機会あつて標記のツアーに参加した。総勢33人で、女性客の参加が断然7対3と多く、どの旅行を見てもそのような傾向にあるようである。成田からフライトし赤道を超えオークランドに11時間弱の旅である。ルートは伊豆諸島、グアム島の東側、ガダルカナル島、ニューカレドニア島、ノーホオーク島を南下し、オークランド(北島人口35万ほどの町)に到着する。時差が三時間、今は夏なのでサマータイムが適用され、四時間日本より早い時差である。

外国に行くときいつも思うのであるが、飛行機の中でも自分がどの位置にいるのが気にかかる。つまりどこをフライトしていかである。窓際について外を見ていても、どこがどこかさっぱり検討がつかないのだが、心配性なのか。どうしようもないと言いつつ聞かせて。組板の鯉同然である。成田からオークランドまで約9800km、到着すると半日市内観光して引き続きクライストチャーチ南島(人口35万ほど)まで1,000km飛び、二日で約11,

000km移動したことになり、ツアーは忙しく疲れてしまう。決まった時間、予算の中で最大公約数を出すのであるから無理はない。ニュージージーランドは呼んで字のごとく歴史が新しい国であるから、いわゆる名所旧跡・古い建築物などもなく、端的に牧場だけである。自然景観を満喫しに行く楽しみがあるからである。そこには雄大な山があり、羊と牛がのんびりと草を食んでいる。よくも森林を開拓し牧草地にしたものである。今では牛が多くなりつつあるそうである。少しだけ牧場の囲いを高く、管理費が羊と同じで餌は同じで儲けが多いと言う。今後は鹿・ダチョウ・アルパカ(毛を利用)などを飼育する傾向があると言う。

今回のツアーで珍しい企画があつたのは、ニュージージーランドの一般の家庭訪問である。南の島クライストチャーチ市を訪れたときである。市の中心部から僅か外れたところのパーティー邸である。夫婦二人の住まいで庭の手入れと家庭菜園を楽しんでいる。主人は製菓会社を定年で辞め、現在75歳で奥さんは3歳違いという。子供さんは独立し、壁には沢山の家族写真が飾られていた。大通りに面したところに広さ200坪位の土地。通りに面したところに庭を配置し、様々な花を植え手入れに余念がない。国民性から庭を

造るのが一般的で土地は入手するのが容易であるらしい。日本の土地の三分の二位に人口430万人であるから家を建てるのに極力二階建てはしない(パーティーさんは一部「階建てだが」土地の真ん中に建物を建て、裏に車庫と家庭菜園畑、チャボりんごが実をつけていた。家庭の残飯は畑に戻し、堆肥作りも絶やささない。野菜の量は少々だが種類は豊富である。庭と畑の説明を聴き、また見せてもらい家の中に入れて見せてくれた。33名の参加者に添乗員、現地説明者が分散してテーブルに着き、奥さんの手料理のサンドイッチと紅茶をいただく。もちろん日本と同じく下足は玄関先で脱ぎ、絨毯敷きの廊下を進み各部屋を見せてもらい夫婦のプライベートな部屋まで開放してくれた。女性が多かつたこともあり、キッチンでの奥さんの説明に時間を要した。孫さんも時々来るらしく色とりどりの器、スプーン、箸などが備えてあつた。調理は電気とガスを使用して、オーブンにいたっては2台備えてあつた。奥さんが上の戸棚から板海苔缶を出して日本料理しているのだと自慢していたので、「その海苔どうするのだ」と質問したら海苔巻き寿司を作るのだと答えてくれた。

「夫婦とも親日家で家のあらゆるところに日本の観光写真、記念、ペンント、小間物、人形、扇子などお土産物を所狭しと飾つてあつた。最近では「愛知万博」のとき万博はじめ、周辺の京都・奈良の観光を楽しんできたとのことであつた。日本にも友達がいって機会を捉えて訪問したいと言つていた。

今回の一般家庭訪問はある会社の企画で実現しているが、全ての旅行会社に適用はされていないので、仮に二週間に一回にしてもパーティーさん夫妻の対応は大変であろう。日本の家庭でも退職後の時間の過ごし方は趣味などを生かしながらなされているが、それらを

身も知らない外人に開放する勇氣には感動せざるを得ない。別れ際に次回日本訪問するときには私の町を訪れてくれと要請した者がいなかったと思うが、それを英語で言えたらと思つと……。

(外国文化の一般家庭を見学させてもらつて)ありがたうと言うのが精一杯であつた。現地案内人に帰つてから礼状を出したいのだがと言つたら結構ですと言われた。彼らの戦略なのか、人身の薄い物足りなさを感じた。

(仙台市泉区在住)

☆新入・転入会員紹介

(平成20年10月～平成21年9月)

(敬称略)

- ・伊東享司 (元東北学院大学工学部教員 仙台舎生OB 興譲館高校S35 東北大学工学部卒)
- ・木村昌三 (株)リード専務取締役 仙台舎生OB 米沢工業S32 高畠町出身 東北大学工学部卒 趣味: スポーツ、そばの手打)
- ・郷野辰幸 (寮生(H12入寮、学部卒業退寮後H20大学院入学再入寮) 興譲館高校H12 米沢市出身 東北大学大学院医学系研究科修士課程在学中)
- ・志村憲二 (長井市 自営 H19-21寮生志村淳君の父上)
- ・高橋公夫 (長井高校S48 H20入寮高橋玄君の父上)
- ・那須譲治(寮生(H14入寮) 長井高校H14 長井市出身 東北大学大学院理学研究科博士課程後期在学中)
- ・長谷川健二 (南陽市宮内 仙台舎生OB H20 南陽

- 高校H16 南陽市宮内町 東北学院大学経済学部H16卒)
- ・佐藤丈洋(寮生(H21入寮) 長井高校H21 南陽市梨郷出身 東北大学医学部在学中)
- ・原田知明氏 (H21入寮生 原田学思君の父上) 米沢市丸の内

- ・青木 謙人(寮生(H21入寮) 米沢興譲館H21米沢市木場町 東北大学工学部在学中)
- (米沢支部より転入)
- ・渡部順一 (東北工業大学 ライフデザイン学部経営コミュニケーション学教授 東北大学卒 米沢市出身)

- ☆仙台興譲館H21年度新入寮生
- ・青木 謙人(東北大学工学部材料科学総合学科1 米沢興譲館H21 米沢市木場町)
- ・安部 玄樹(東北大学法学部法学科1 米沢興譲館H21 米沢市関根)
- ・佐藤 丈洋(東北大学医部保健学科放射線技術科学専

- 攻1 長井H21 南陽市砂塚)
- ・原田 学思 (東北大学工学部機械知能・航空学科1 米沢興譲館H21 米沢市丸の内)

★仙台支部会員訃報
謹んでご冥福をお祈り致します。

桑島 治三郎様

平成21年2月25日(逝去 (95才)

元仙台興譲館長
東北大学医学部名誉教授
(眼科学)
元市立酒田病院院長

遺族ご住所

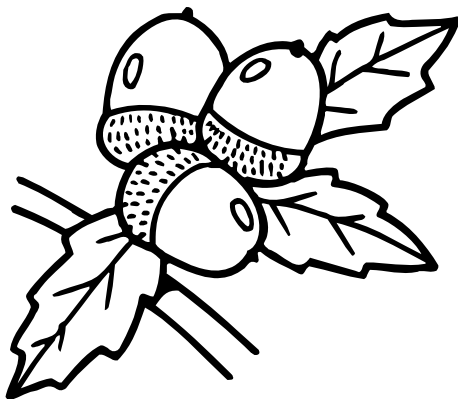
981-0936
仙台市青葉区千代田町5-6

「仙台支部便り2号」の訂正
3p.1段目 新入会員紹介
鹿股純夫 — 鹿俣純夫に訂正

同好の士による趣味の会

結成は如何ですか。

釣り・小旅行・トレッキング・史跡探訪・食べ歩き・料理・園芸・造園・写真・絵・書・俳句・同人誌・茶・華・ダンス等の 楽しい企画がある方は、支部便りやメール、FAX等で広報しように思いますので、是非ご連絡下さい。



H20年10月18日(土) 芋煮会



仙台支部行事写真

H20年12月13日(土) 忘年会



H21年1月24日(土) 新年会



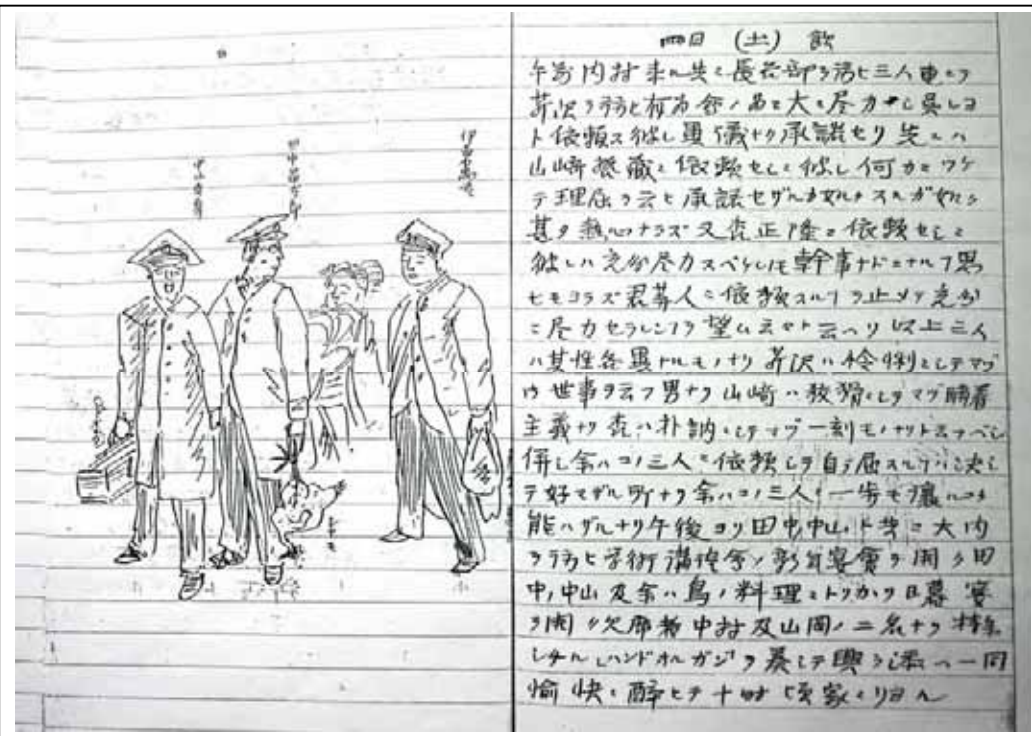
H21年4月12日(日) 中條支部長宅お花見



H21年3月29日(土) 卒業生を送る会



H21年4月18日(土)
新入寮生歓迎会



中山*彦 田中苗太郎 伊東忠太
ハンドオルガン シヤモ

四日(土) 飲

午前内棟ル 共々長谷部ヲ訪ヒ三人連ニテ 芹尺ヲ訪ヒ 有為会ノ為ニ大々尽カシ呉レヨト依頼ス 彼シ異議ナク承諾セリ

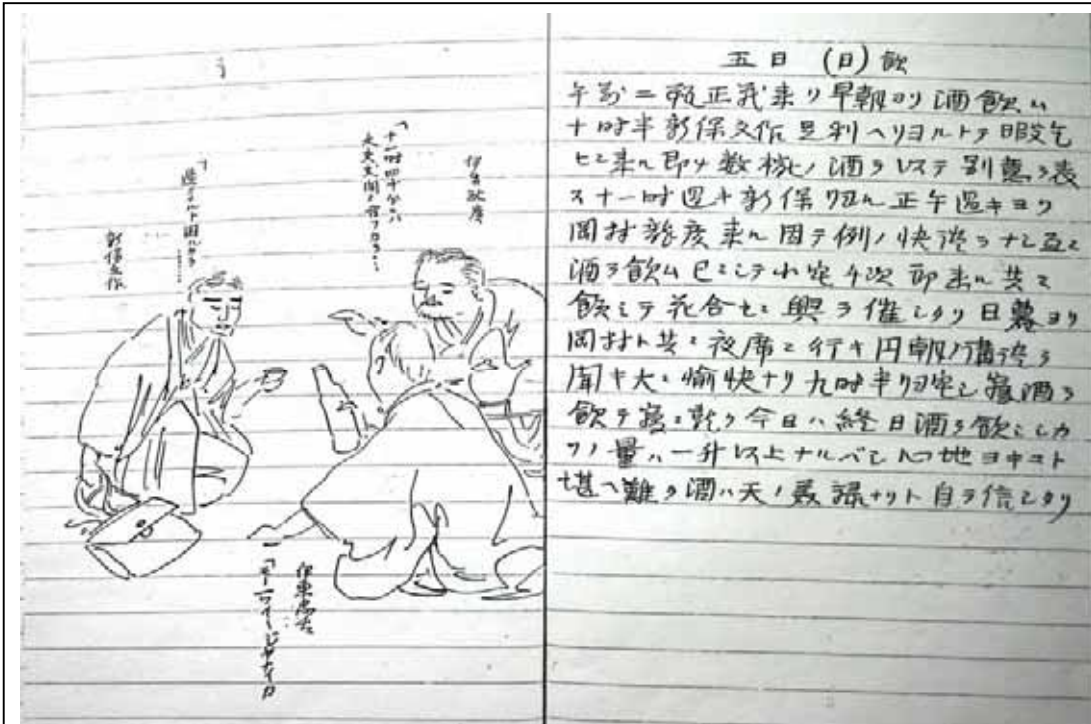
先ニ山崎智藏ニ依頼セシニ 彼レ何カニツケテ理屈ヲ云ヒ 承諾セザルカ如クスレバ如ク 甚々熱心ナラズ 又 杏田隆ニ依頼セシニ 彼レ 充分尽カスベケレトモ 幹事ナドニナル事(?)思ヒモヨラズ 君等ニ依頼スル事(?)ヲ止メテ充分ニ尽カセラレシ(?)ヲ望ム云々ト云ヘリ

以上三人 其性質異ナルモノナリ 芹尺 伶俐ニシテ マヅ 御世事ヲ云フ男ナリ 山崎 狡猾ニシテマヅ 瞞着*主義ナリ (*瞞着: ごまかすこと) 杏 朴訥ニシテ マヅ一刻モノナリト云フベシ 併シ余ノコノ三人ニ依頼シテ自ラ屈スル事 決シテ好マザル所ナリ 余ノコノ三人ニ一歩モ譲レトモ能ハザルナリ

午後ヨリ 田中、中山ト共ニ大内ヲ訪ヒ 学術講演会ノ新年宴會ヲ開ク 田中、中山及余ハ鳥ノ料理ニトリカカリ日暮宴ヲ開ク 欠席者中村及山岡ノ二名ナリ 持参シタル「ハンドオルガン」ヲ奏シテ興ヲ添ヘ 一同愉快ニ酔ヒテ 十時頃家ニ帰ル

浮よのたび3
(米沢有為会生みの親 伊東忠太氏の日記) — その3
伊東忠太ら学生6名が發起人となり 明治22年11月23日(神嘗祭) 有為会が結成されたいきさつは、有為会誌創立100周年及び110周年特

集号(松野良寅氏記)に詳しい。今回連載する日記は翌23年の元旦から1月11日欧遊館での米沢大親睦会まで 忠太が同士加入要請演説をぶった日迄



の分である。
 当時忠太氏は空橋時代と自称した
 合宿状共同生活を送り切磋琢磨してい
 た。(M)

新保文作「遅クナルト困ルカラ・・・」

伊東祐彦「十一時四十分ニハ大丈夫間ニ合フカラ・・・」

伊東忠太「モーツイイジャンナイカ

五日(日) 飲

午前 二瓶正義来リ早朝ヨリ酒飲ム 十時半 新保文作 足利へ帰ルトテ暇乞ヒニ来ル
 即チ数椀ノ酒ヲ以テ別意ヲ表ス 十一時過キ新保帰ル
 正午過キヨリ 岡村龍彦来ル 因テ例ノ快談ヲナシ 互ニ酒ヲ飲ム
 巳ニシテ小宅千次郎来ル 共々飲ミテ 花合セニ興ヲ催シタリ
 日暮ヨリ岡村ト共々夜席ニ行キ 円朝ノ講談ヲ聞キ大ニ愉快ナリ
 九時半帰宅シ 寝酒ヲ飲テ寝ニ就ク

今日ハ終日酒ヲ飲シシカソノ量ハ一升以上ナルベシ

心地ヨキコト堪へ難ク酒ハ天ノ義祿(?) ナリト自ラ信ジタリ

編集子

編集長 滝口 政彦
 発行世話人 御供 政敏

編集後記

直江兼継公が主人公の大
 河ドラマ「天地人」も佳境に入りいよいよ米沢が舞台となります。兼継公が礎を築き、鷹山公が建て直したと評価されてる米沢ですが、現在人口減少が進行し、

市行政も市民も新たな方向を一生懸命模索しているところと聞きおよびます。

上杉茂憲公以来の上杉家の篤志に包まれながら、明治22年以来、育英事業を中核とした郷土支援のボランティア組織として綿々と継続されてきた米沢有為会も本年120周年を迎える節目の時にあり、厳しい経済情勢の中ではありますが、郷土の活力のお手伝いと次代を担う若者達の育成の為にさらに努力しようとしております。

会員の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げますと共に、本会への変わらぬご厚志を宜しくお願い申し上げます。(M)

▼第3号発刊はシルバークの最終日。二週間前、御供君より突然連休中に発行予定原稿・写真の大量メール。忙しい時は多事重なるのが常。小生チーフの植物観察会が3つ、新聞の編集2つ、予備校の授業プリント・模試の作成とてんてこ舞いで連休中は山には一日も行けず。中條先生、甲先生には突然の挨拶文のお願いで迷惑をおかけしました。第4号は2月に発行予定です。是非原稿をお寄せ下さい。(T)